

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	森林の里親制度推進事業	会計	一般会計	事業No.	447	施策順No.	57-007
		事業種別	政策・重点	予算科目	6-2-2-26-9		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	林務課		
施策	57省エネ・新エネ活用の推進			事業期間	開始	22	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	「森林の里親促進事業」が導入できる森林						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度		
	意図	環境活動を熱心に取り組んでいる企業・団体等に支援を頂き、地域と連携した森林整備を推進する。。							
	対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
		市内民有林の森林面積 (ha)		40273	40499	40485			
		契約企業・団体等累計(者)		1	1	2	3	3	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	里親企業と地元及び森林所有者との交流が図られた。								

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>地球環境が問題視されている中、環境活動を熱心に取り組んでいる企業・団体等と、長野県林務部で推進している「森林(もり)の里親促進事業」の契約を締結し、企業・団体等から支援を頂くなかで地域との交流を深め、地域と連携した森林整備を行うことにより、新しい形の里山の森林づくりを推進する。</p> <p>現契約実績 平成20年度契約締結 社団法人 日本ゴルフツアー機構・飯田市上郷野底山財産区 H20.10.1～ 1年更新 平成22年度契約締結 株式会社 八十二銀行・飯田市北方外三区財産区・飯田市二区財産区 H22.4.1～H25.3.31 3か年間 平成22年度契約締結 株式会社 アイボックス・飯田市山本地区財産区・飯伊森林組合 H22.12.1～H27.11.30 5か年間</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	企業・団体等と地域との交流会	間伐・枝打ち・歩道整備等の交流回数	3回
23年度実施計画	企業・団体等と地域との交流会	間伐・枝打ち・歩道整備等の交流回数	6回

3 事業コスト

事業費	特定財源内訳、補足事項	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額
		国庫支出金			
		県支出金			
		起債			
		その他			
		一般財源	200	96	190
計 (A)	200	96	190		
		80			
		0			
		286			
		382			

4 事業に対する市民や議会の意見

平成20年度の市議会一般質問に於いて、企業、自治体等と森林整備などの交流を行うべきとの提言が出されている、

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	環境に配慮しエネルギーを工夫して大切に使う	施策の成果指標又はムトス指標	飯田市全体が排出する温室効果ガス排出量(トン・20年度算出実績は18年度のもの)
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	平成20年度に社団法人 日本ゴルフツアー機構と飯田市上郷野底山財産区、平成22年に株式会社 八十二銀行と飯田市北方外三区財産区・飯田市二区財産区、株式会社 アイバックスと飯田市山本地区財産区・飯伊森林組合との契約ができ、当初の目標を1年早く達成することができた。		
	後期に向けた課題	当面3者との交流に、積極的に取り組むことを課題としたい。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	長野県林務部や下伊那地方事務所林務課と、常に情報の共有を図った。		
	後期に向けた課題	長野県林務部や下伊那地方事務所林務課との、連携の強化を図る。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	会議などの開催にあたり、飯田市で行うようにした。		
	後期に向けた課題	現状の継続		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	交流を行う中で、受益者負担は必然的に発生するため、適正である。		
	後期に向けた課題	現状の維持		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをされましたか、又は、配慮しましたか	4年間の振り返り	受入先である財産区等が、自主的に取り組めれば一番良いが、当面は飯田市が主体になって取り組んでいく必要がある。		
	後期に向けた課題	引き続き協調して取り組んでいくものである。		
全体を通じて	4年間の振り返り	長野県下で3企業との契約をしている自治体は無い。		
	後期に向けた課題	県林務部の指導もあることから、当面は3企業との交流に重点を起きたい。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------